

平成 28 年度 下 半期 指定管理者管理運営状況シート

●施設の概要

施設名	岩野田児童センター	所管課	子ども未来部子ども支援課
所在地	岐阜市栗野東1丁目95番地		
指定管理者名	社会福祉法人 中部学院福祉会		
指定期間	平成24年4月1日～平成29年3月31日まで		
選定方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募		
料金制	<input type="checkbox"/> 使用料 <input type="checkbox"/> 利用料金 <input checked="" type="checkbox"/> 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	15,146,742円		
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにすることを目的とする。		
施設概要	◇構造:鉄筋コンクリート造2階建 ◇敷地面積:1,095.03㎡ ◇延床面積:532.42㎡ ◇施設内容:遊戯室、幼児室、集会室兼図書学習室、図工室、おもちゃ図書館、事務室兼静養室、駐車場		

●利用状況

		H28 下半期	H28 上半期	H27 下半期	H27 上半期	H26 下半期
利用者数 (単位:人)	来館者数	10,012	12,366	10,413	12,944	9,346
	移動児童館利用者数	904	1,409	1,573	1,849	1,007
各室稼働 状況	移動児童館実施回数(単位:回)	22	24	25	23	24
	開館日数(単位:日)	151	157	151	156	153

●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①開館日・開館時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応 ⑤仕様書、事業計画書に基づく事業の実施	①、⑤計画どおり実施。 ②所長(嘱託職員・非常勤)、正規職員・常勤(児童厚生員2人)、非常勤職員1人。 ③児童センターのおたより「わくわく」の発行・配布、イベントポスター掲示及びチラシの配布、報道機関への情報提供、児童館のホームページの活用。 ④苦情事例はないが、匿名の電話やメール等には臨機に対応。利用者への話しかけにより苦情やニーズを的確につかむよう心掛けている。
自主事業・提案事業	—	—
施設管理	①施設設備の保守点検の実施(仕様書別記2参照) ②施設の衛生管理に対する配慮、快適に利用できる状態の保持 ③省エネルギー並びに環境への負荷の軽減に努めること ④施設・設備・備品等の維持管理	①指定管理者(本部)連携のもと適切に実施。備品購入・委託事業等は法人の経営する施設と一括購入及び入札をすることで経費の削減を図っている。 ②快適な環境を整備するため、職員が細やかな気配りを行った。 ③省エネ等に対する職員の意識の徹底に努めた。 ④閉館後に施設、備品等の点検を行った。
施設修繕	下記の観点からの修繕実施状況 ①迅速な修繕の実施 ②指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備	①大規模な修繕については、指定管理者(本部)及び市に要望を提出。 ②修繕を要する事態が生じた場合は迅速に対応する。
危機管理・法令遵守	①個人情報の保護 ②非常時の対応策 ③関係法令の遵守	①中部学院福祉会岩野田児童センター管理規定に基づき、職員会議等で日頃から認識を意識している。 ②非常時対応マニュアルを整備し、毎月1回の職員間での話し合いや年2回の利用者を交えた避難訓練等に確認し合っている。 ③コンプライアンスの意識の徹底に努めた。

●利用者評価

<p>利用者アンケートの実施状況</p>	<p>○ 調査期間 平成29年2月下旬 ○ 調査対象 ・幼児クラブ参加の保護者等(0歳児～3歳児の主に母親) ・小中学生(来館児童) ○ 回答者数 ・幼児保護者60人(3歳以上12人、2歳20人、1歳21人、0歳7人) ・小中学生76人(小1年9人、小2年17人、小3年9人、小4年19人、小5年1人、小6年7人、中学生以上11人、未記入3人)</p>
<p>利用者アンケートの実施結果</p>	<p>【幼児保護者に対して】 ○児童センターを利用するきっかけは 近所なので(14人)、幼児クラブに参加したくて(7人)、HPを見て(5人)、兄弟の上の子が利用していた(5人) ○児童センターを利用する目的は 子どもを遊ばせに(51人)、子育ての情報交換(23人)、ママ友づくり(20人) ○ホームページを見ますか 見る(40人)、見ない(15人) =見ると答えた人= 問 HPの主はどこを見るか⇒月間行事予定、日記・ブログ ○幼児クラブで採り上げてほしいカリキュラムは ボール遊び(40人)、リトミック(39人)、絵本・紙芝居(30人)、体操(27人)、手遊び(23人)、粘土遊び(19人)、人形劇鑑賞(15人)、お楽しみ会 等 ○職員の態度や対応で気づくことは いつも気にかけて、声をかけてくれて、相談にも乗ってもらえて助かってます。 個別にも対応して頂けるので、親しみが持っています。</p> <p>【小中学生に対して】 ○児童館で好きな遊びや楽しい行事は何 ドッジボール(34人)、卓球(18人)、冬フェスタ(11人) 等 ○やってみたい遊びややってほしい行事は ドッジボール大会(10人)、鬼ごっこ(8人)、バスケット大会(7人)、サッカー(6人)、おまつり(5人) ○欲しいおもちゃや読みたい本は [ほしいおもちゃ] ベイブレード、皿回し、ジャンポン、ワミー、新しい人生ゲーム、ブロックヘッド [読みたい本] 小学生あるある、サッカーの本テクニック集、マリと子犬の物語、最強ジャンプ、銀(金)の本 ドラえもん科学ワールド ○児童館職員やボランティアスタッフをどう思う ・いつもありがとう。・やさしい。・児童館は楽しい。・けがをした時手当してくれてありがとう。・もっと遊んでほしい。</p>
<p>利用者からの要望・苦情と対処・改善</p>	<p>アンケート結果の集計表及び回答項目を館内に掲示し、利用者に周知した。事業への意見等、簡易な要望に対しては、順次スピーディに事業に反映。要望、問題点の指摘に対しては、「対応が可能、いつ頃」「対応は不可能、その理由」を明確にして、幼児クラブ等で保護者に口頭で説明するとともに、下記の回答を館内に掲示を行った。</p> <p><要望⇒回答> ① 駐車場をもっと広く、出入りしやすいように。⇒ できない。公式には6台、詰めれば10台以上の駐車が可能。他の児童館施設と比べても少なくない。出入りについては、園庭の構造上、改善は不可能。子どもに注意して出入りしてほしい。いい提案があればご意見を。 ② 遊戯室のガラス戸に網戸を(幼児のために)。⇒ できない。幼児の利用は、ガラス戸を閉めたままで行い、エアコンで温度を調節してほしい。主に小学生が遊ぶ部屋のため、豪速球のボールが飛び交う。網戸はすぐ破損する。 ③ 幼児と小学生と一緒に遊べる部屋がほしい。⇒ 2階図書室・遊戯室での遊びで工夫して頂けるよう配慮するようにします。 ④ 食事が出る所があると良い。⇒ 現在は土曜・日曜・祝日・学校の長期休みに昼食ができるように部屋を用意しています。</p>

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保されること	平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	・利用者アンケートの実施 ・運営委員会の開催	S	S	S
		情報公開、広報の方策	・利用者アンケート結果の公表(館内掲示など) ・広範で適切な広報活動の実施(ホームページなど)	SS	SS	SS
		区分評価			SS	
効果性	事業計画書の内容が、対象施設の効用(設置目的)を最大限発揮するものであること	既存業務の改善、工夫又は新規事業等の実施	・業務改善や工夫又は新規事業(行事)等の実施	SS	S	S
		利用者ニーズ、苦情などの把握方法及び対応方策など	・利用者アンケートの実施 ・苦情・クレームへの着実な対応	S	S	S
		利用者に対するサービス向上の方策(窓口対応、プロモーション、設備の整備など)	・移動児童館の実施(仕様書別記3参照) ・利用者へのサービス向上に繋がる方策の実施	S	S	S
		利用促進、利用者増の方策	・利用促進や利用者増に繋がる方策の実施	SS	S	S
		サービスの質を確保するための体制、モニタリングなど	・事務分掌等に基づく事務分担の実施	S	A	A
		施設の効用(設置目的)を最大限発揮できるスタッフの配置	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	S	A	A
		区分評価			S	
効率性	事業計画書の内容が、管理経費の縮減が図られるものであること	指定管理経費の妥当性(収支計画の妥当性など)	・収支計画に沿った運営(予算書に沿った執行)	A	A	A
		管理経費縮減の具体的方策	・管理経費縮減に繋がる方策の実施(リサイクルやリユース、節水・節電など)	S	S	S
		区分評価			S	
区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	組織及びスタッフ(採用予定者も含む)の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	S	A	A
		スタッフ(採用予定者も含む)の管理、監督体制	・事務分掌等に基づく管理・監督体制並びに事務分担の実施	S	A	A
		スタッフ(採用予定者も含む)の人材育成の方策	・職員の資質向上を図る研修の実施又は研修会への参加	S	A	A
		リスクへの対応方策(防止策、非常時の対応マニュアルなど)	・危機管理(リスク)や非常時対応のマニュアルの整備 ・リスク防止策の実践	A	A	A
		区分評価			A	
貢献性	事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域(以下「地元」という。)の振興、活性化などに貢献できるものであること	地元の法人その他の団体の育成(一部業務の再委託先)、地元住民の活用(雇用又はボランティア等)	・地元の諸団体との連携、交流 ・地元の法人その他の団体の育成又は地元住民・高齢者・障がい者等の活用	S	S	S
		地元での社会活動等への参加	・地元の振興、活性化などに貢献できる社会活動等への参加(地元行事への参加)又は地元の団体・住民との協働事業等の実施	S	S	S
		区分評価			S	

●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

<p>今期の取組み に対する評価</p>	<p>28年度下半期、新規事業を含め、特に力を入れた取り組みを挙げてみたい。</p> <p>①児童自らの提案で立ち上げ、実施した初の事業が2点。・その1つは、7月9日、隔月1回定期的に開催している「あそびクラブ」のクラブ員20人の提案で、小学生らにどんな遊びがしたいか「意見ボックス」を設置し、アイデアや意見を聞くアンケート調査を実施。10月中にその結果をまとめて児童主催の「クリスマス会」「お楽しみ会」等の児童館事業に反映させた。</p> <p>②他の諸団体と積極的に協働で実施した事業が11月3日、畜産センター公園(常磐校区)で、同公園主催の「オータムフェスタ」の協働事業として「青空児童館」を開催した。中高生・大学生ボランティアの協力もあり、205人の参加があった。</p> <p>③平日の放課後、勉強道具を持ち込む小学生が増える傾向に対応するために、勉強部屋を特別室として提供している。「宿題追い込みルーム」開設の延長線上の事業。</p> <p>④広域的な広報活動として、積極的に、新聞・テレビなどマスメディアに情報を提供した。その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「母学キャンパス」(朝日新聞28・10・15付け掲載) ・「赤ちゃん抱っこ会」(中京テレビ29・3・28放映) ・「赤ちゃん抱っこ会」(ぎふちゃん29・3・28放映) <p>以上、28年度下半期の新規事業等を列記した。</p> <p>児童を取り巻く環境が随分変化してきている。そのため、児童館利用者数も伸び悩んでいる。その要因として、まず幼児については、出生率の減少が影響、さらに、社会的要因として、3歳未満児の幼稚園の受け入れ・民間有料託児事業(幼児デイサービス事業)の増加等が挙げられる。小中学生の減少要因としては、ゆとり教育から脱却し授業時間の増加(土曜授業等)、学習塾・習い事・スポーツクラブ等の繁栄が要因と思われる。</p> <p>こうした情勢にあって、なお利用者呼び込むためには、その時に応じたニーズを適格に把握した事業を提供し続けなければならないと考え、今年度事業を進めてきた。</p> <p>その自己採点結果は、Sとしたい。</p>
<p>前回までの意見を 踏まえた取組み状況</p>	<p>岐阜市の児童館に指定管理者制度が採用されたのが平成18年4月、今年度は11年目の第3期の最終年度である。「民間の手法を用いて弾力的かつ柔軟な施設運営が可能となり、利用者のサービス向上や地方自治体の経費節減が期待できる」として、同年に多くの公共施設に指定管理者制度が採用された。児童館という無料の福祉施設にこの制度がなじむかどうか当初議論された中でのスタートだった。そこで、指定管理者制度のこれまでの功罪について検証してみたが、「運営の効率性」「民活の導入」「経費節減」ひいては「市民サービスの向上」等という面から総合的にみて、結論的に、当児童センターの場合、この制度は極めて有効に機能していると考えている。</p> <p>この11年。上記の手法で、数多くの新規事業を企画・実現してきたが、当児童センター独自のオリジナル事業として定着した例を次に列挙してみたい。</p> <p>① 児童健全育成事業(主に小中学生対象事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生自主ボランティア隊「V・わくわく隊」の活動(高齢者施設訪問・交通安全街頭指導、お化け屋敷の企画運営等) ・「子ども運営委員会」 ・「宿題追い込みルーム」 ・夏(ながら川ふれあいの森 岐阜市と協働したボランティア)、秋(畜産センター公園)の年2回「ディキャンプ」 ・「ランチルーム」 ・畜産センター公園と共催で芝生広場での「青空児童館」 ・小学校6年生と0歳児親子の交流「赤ちゃん抱っこ会」 ・小中生、高校生等が自ら企画する自主事業 ・常磐小学童放課後児童クラブでの「出前児童館」 <p>② 子育て支援事業(3歳以下の親子対象の事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児クラブのカリキュラムの中で、「幼稚園の訪問・園児との交流」、「日赤職員からAEDの実践を含む赤十字幼児安全法を学ぶ」 ・子育て講座「母学キャンパス」3回シリーズ開催(中部学院大学短期大学部公開講座) ・父子対象「パパ友クラブ」 ・祖父母と孫対象「孫育て応援セミナー」 ・小学校6年生と0歳児親子の交流「赤ちゃん抱っこ会」 <p>③ 地域組織活動支援事業(主に地域に発信する事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアとコラボで運営する「夏まつり(流しそうめん)」「冬まつり(もちつき大会)」 ・ベビーカーもどろぞ本格的生演奏会「ファミリー秋のコンサート」 ・岐阜大学生による「人形劇鑑賞会」 <p>上記の具体的なオリジナル事業が実施できた背景には、11年間に培われた当児童センターの下記の特色(カラー)が定着したからだと考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 大学との連携によるグレードの高い子育て支援策 ② 児童のボランティア意識の育成と実践 ③ 恵まれた自然環境を生かした児童の野外活動 ④ 地域の子育てネットワーク組織との協働によるキメの細かい子育て支援策 ⑤ 地域へ発信する各種活性化イベントの開催 ⑥ 移動児童館の拡充による遠隔住民へのサービス

今後の取組み

今後「児童館どこへ行く？」。
国の児童館行政に対する姿勢は極めて希薄だといえる。昨年4月「子ども・子育て支援新制度」がスタートした。が、内容は保育行政への厚い手立てが中心であり、児童館行政に関しては触れられていない。そうした姿勢の背景には児童館数の大幅な減少もあるようだ。全国の児童館数は、平成18年4718か所が平成26年4598か所へ120か所の減少。その要因に、老朽化しても建て替えの際の自治体の財政難、児童の減少、統合などの諸問題がある。と同時に、ゆとり教育体制の反省から「遊び場所になぜ金をかけるのか」というソフト面での偏見もある。

ここで児童館の本来の重要な役割を改めて認識してみたい。「児童館は児童福祉施設の中で、唯一、全ての子どもを対象にし、子どもや親が自由に利用できる施設だ。子育て家庭や子育てサークルの支援、親や子への遊び(子どもの成長過程における遊びの重要性)提供、移動子育て支援事業、小中学生の居場所づくりなど多様な取り組みを展開している。最近では、児童虐待防止を推進するためには、子育て支援の地域ネットワークが必要になる。その中核となる児童館の役割はますます重要となっている。」

ともあれ、今後の、岩野田児童センターの進むべき具体的方向を、国の姿勢も配慮しながら次に記したい。新支援制度の中で、唯一児童館に求められているのは、「放課後児童クラブ」に関わる項目。いわば働く母親の保育対策の小学生版。教育委員会所管の事業ではあるが、それを補完する意味で、試行も含めて検討したい事項は下記の通りである。

- ① 児童の学休日に開設している「ランチルーム」を拡充へ。
- ② 現在の常盤小学校「放課後児童クラブ」への積極的協力体制を、岩野田小学校等へも拡大しネットワークが構築できないか。
- ③ 児童センター内で勉強する環境の整備へ。夏休み後半に開設している「宿題追い込みルーム」の拡充版として、大学生のボランティアサポート体制をとり、学休日に定期的に開設できないか検討へ。(学習塾へ行けない貧困児童対策)。
- ④ 「ランドセル児童館」への試行。「放課後児童クラブ」に所属していない児童を対象にランドセルのまま直接来館を許可する制度の検討へ(許可条件等)。
我々は毎日、学校の先生や親兄弟に監視されることなく、友達と自由奔放に遊ぶ児童の底抜けに明るい笑顔に接している。今後、国の立ち位置がどうあれ、この児童らのためのかけがえのない児童館を大切にしたいと考えている。

●所管課の意見

児童センターの広報誌を担当小学校に配布のほか、公民館、保育所、幼稚園、畜産センター等にも配布、イベント用ポスターはセンター以外にも、小学校、近隣スーパー、高齢者施設、一部幼稚園、保育園等にも設置依頼を行った。

また、10月に開催を行った大学から講師を招いて子育ての知識を学ぶ「子育て支援講座 母学キャンパス」や、3月には0歳児の母親が小学生に赤ちゃんの抱き方を優しく指導し交流を図る「赤ちゃん抱っこ会」が、新聞やテレビで児童センターの活動が取り上げられるなどマスコミを積極的に活用しており、児童センターのPRとなっている。

児童センターを利用する子どもの意見を直接反映するため、子どもで組織する「子ども運営委員会」を開催するほか、「遊びクラブ」では意見ボックスを設置し、やってみたい遊び、欲しいおもちゃなどの生の意見を児童センターの運営や子どもの自主イベントに反映するなど、子どもの自主性の助長・支援を行った。

老人クラブや母親クラブと協力し、児童センターの行事やまつりやを開催するほか、ベビーカーと一緒に入れる本格的な演奏会「ファミリー秋のコンサート」を児童センターで開催し、子どもだけに留まらない、地域に開けた活動を精力的に行った。

職員体制や経営状況については、問題なく運営が行われている。

●指定管理者評価委員会の意見

大学が経営母体であるメリットを活かし、子育て講座やイベント等様々な取組みを行い、地域の活性化や子育て支援に貢献したことが評価できる。

管理運営は適正に行われており、良好と認められる。